

この度は、「薬剤師国家試験対策参考書[改訂第 16 版]⑨実務」をご購入いただき、誠に有難うございます。
本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。
ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

薬学ゼミナール編集 青本[改訂第 16 版]⑨実務 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P168 表 電解質輸液等の分類 脱水補給液(2 号液) 成分等	……K ⁺ 、PO ₄ ⁻ を配合	……K ⁺ 、 <u>HPO₄²⁻</u> を配合

下記は、2026 年 6 月 16 日炭酸リチウムの電子添文改訂(妊婦投与禁忌解除)に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後		
P360 表 妊婦に投与禁忌の代表的な医薬品	<table><tr><td>躁病治療薬</td><td>炭酸リチウム(リーマス)</td></tr></table>	躁病治療薬	炭酸リチウム(リーマス)	(削除)
躁病治療薬	炭酸リチウム(リーマス)			

下記は、2026 年 8 月 25 日オランザピンの電子添文改訂(CINV 時の糖尿病禁忌解除)に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P285 メモ欄	<u>▶*1 オランザピンの併用が困難な場合(糖尿病患者にオランザピンは禁忌)は、オランザピンを除く 3 剤併用療法を行う。</u>	<u>▶*1 オランザピンは一般的に糖尿病患者に禁忌であるが、化学療法誘発性悪心・嘔吐(CINV)に使用する場合に限り、糖尿病患者と糖尿病既往歴のある患者への投与禁忌が解除されている。</u>

薬学ゼミナール編集 青問[改訂第 16 版]⑨実務 補足及び訂正一覧表

下記は、2026 年 6 月 16 日炭酸リチウムの電子添文改訂(妊婦投与禁忌解除)に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P566 問 7	妊婦への投与が禁忌である医薬品は…	<u>妊娠する可能性のある女性に使用する場合には、催奇形性リスクを患者に説明した上で、使用の可否を慎重に判断する必要がある医薬品は……</u>
P567 問 7 解説	1 誤 アセトアミノフェンは妊婦又は妊娠している可能性のある女性には有益性投与とされており、禁忌ではない。 2 誤 インスリンは、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には有益性投与とされており、禁忌ではない。 3 正 炭酸リチウムは動物実験で催奇形作用が、またヒトで心臓奇形の発現頻度の増加が報告されているため、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には禁忌である。 4 誤 プレドニゾロンは妊婦又は妊娠している可能性のある女性には有益性投与とされており、禁忌ではない。 5 誤 ヘパリンナトリウムは、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には有益	1 誤 アセトアミノフェンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。 2 誤 インスリンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。 3 正 炭酸リチウムは動物実験で催奇形作用が、またヒトで心臓奇形の発現頻度の増加が報告されているため、 <u>妊娠する可能性のある女性に使用する場合には、催奇形性リスクを患者に説明した上で、使用の可否を慎重に判断する必要がある。</u> 4 誤 プレドニゾロンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。 5 誤 ヘパリンナトリウムの投与による催奇形性リスクは報告されていない。

	性投与とされており、禁忌ではない。	
--	-------------------	--

※本書記載の参照頁“→「第○章 ○.○.○ ……」p.○参照”は、該当の内容が記載されている○.○.○が始まる頁を示しております。